

## 一般社団法人日本体力医学会臨時理事会（2015年10月）議事録

日 時：2015年10月16日（金）午後5時30分～7時00分

場 所：八重洲倶楽部 第2・3会議室

議 長：鈴木政登理事長

出席者：鈴木政登理事長、

西平賀昭、永富良一両副理事長、

碓井外幸常務理事、

大野 誠、甲斐裕子、勝村俊仁、栗原 敏、

後藤勝正、下光輝一、須田和裕、武政 徹、

竹森 重、田中喜代次、田畑 泉、成田和穂、

西牟田守、宮地元彦、山内秀樹各理事、

井上 茂、清田 寛、小林康孝各監事

欠席者：小野寺昇、川原 貴、坂本静男、内藤久士、

能勢 博、浜岡隆文各理事、定本朋子監事

### 【審議事項】

#### 1. 前回議事録の承認

理事会開催中に各自で議事要旨の内容確認を行い、訂正等がある場合は申し出ていただくこととし、理事会終了後に承認とすることとした。

#### 2. 各種委員会委員について（各種委員長）

各委員長から理事長に委員の推薦があり、執行部で確認済みの委員会委員一覧が提出され、一部辞退者の記載は除くことと、当日委員に推薦されたものを含めて、審議の結果、承認された。併せて、今期の委員会活動の方針が報告された。

また、学会賞選考委員会の委員は非公開となっているが、業務執行体制として、鈴木理事長が執行役に着任する事が承認された。さらに、選挙管理委員会の執行役として西平賀昭副理事長が当たることになった。

#### 3. 今期の活動方針について（鈴木理事長）

新理事長として考えている以下4点について詳細な説明があり、承認された。

##### 1) 編集事業について

PubMed掲載に向けて、JPFMSのインパクトファクター1以上を目指す。

##### 2) 学術刊行物の刊行

本学会独自の学術刊行物をこの2年の間で刊行する予定。

まずは学術刊行物小委員会を立ち上げ、委員長は永富良一副理事長、委員には編集・学術・渉外委員会、その他関連する領域の先生方にご協力を頂くが、監修者として鈴木理事長が学術刊行物出版の責任を負うことで承認が得られた。出版までのスケジュールは、次回11月の理事会で、学術刊行物小委員会の立ち上げ（委員の承認）、出版社の決定、2016年9月頃から原稿を集め、2017年愛媛大会の時に刊行予定。

##### 3) 倫理の問題

論文投稿の際、各施設の倫理委員会での倫理審査を受けていない論文は受け付けていなかったため、スポーツクラブなどの倫理委員会がない職場に属している会員の場合は、大会では発表が出来ても論文投稿が出来ない現状があり、倫理委員会を中心にこ

の制度の見直しを検討してもらう。

#### 4) 会員・会費確保

各種委員会委員長から推薦された委員の中に会費を5年間納めておらず、自然退会となっている会員が含まれていた。会費未納による退会者を大会事務局で見逃していたケースがあり、会費未払いによる自然退会者を防ぐために、総務委員会で検討を行い、銀行振込み以外の会費納入方法を検討してもらう。

#### 4. 名簿作成スケジュールについて（鈴木理事長）

役員交代の時に作成していた名簿作成のスケジュールが提示され、承認された。冊子形式ではなくオンライン上で閲覧できる名簿を作成することが承認されており、実現方法については次回理事会以降に再度検討することとなった。

#### 5. プロジェクト研究について（須田委員長）

前委員会で議論されていたプロジェクト研究のスケジュールについて、現状のスケジュール（4月末応募締切）だと、承認されてから実際に研究活動を開始できるのが10月以降になり、4月頃から研究活動が開始できるような応募締め切りを設定するのが望ましいとの報告があった。前委員会の議論を尊重し、応募締切を前倒ししたいと提案があり、審議の結果、承認された。

#### 6. その他

##### 1) 国際会議における日本学術会議との共同主催について（田畑理事）

平成30（2018）年度開催国際会議における共同主催の募集についての資料が提出された。2020年の東京オリンピック・パラリンピックに向けて、本学会でプレングレスを実施する場合、会議が行われる3年前に学術会議の募集があるため、今から検討を始め、来年のこの時期には内容が固まっていれば申請して共催が可能になると説明がなされた。栗原理事より、自身が所属する日本生理学会では学術会議にプレングレスを申請する事が決まっているため（2019年3月開催予定）、日本生理学会と共同で開催する事も視野に入れてほしいこと、田畑理事は日本体育学会所属でもあるため、永富渉外委員長を中心に各関係学会と連携を取り合い、まずはどのような方向で本学会として進めていくかを今後検討することとなった。

##### 2) 日本学術会議の生活習慣病分科会と健康スポーツ分科会の共催シンポジウムについて（宮地理事）

日本学術会議の生活習慣病分科会と健康スポーツ分科会の共催シンポジウムを、来年の岩手大会で開催させていただけないかと先方より打診があったことが報告された。次回理事会にて、プログラム委員会や岩手大会長を含め、審議を行うこととなった。

## 【報告事項】

### 1. 各種委員会報告（委員会活動方針の内容も含む）

#### 1) 総務委員会（武政委員長）

- ・評議員会、社員総会の在り方を検討。
- ・福井大会長の推薦については、現在コンタクトを取っている最中。
- ・会費納入方法の検討（自動引き落とし等）。
- ・選挙管理規程の改定や、投票方法の検討（Web投票等）。
- ・NHKからのアンケート依頼「ためしてガッテン」のアンケートを10月15日に会員宛にメール配信を行ったと報告があり、今後このようなアンケート依頼が来た際の業務フローを検討。また、放映前には総務委員会と広報委員会で内容の確認を行う。

#### 2) 編集委員会（後藤副委員長）

- ・PubMed掲載に向けて、JPFISMのインパクトファクター1以上を目指す。
- ・2016年までのJPFISM掲載のReview Article等の執筆者、論文題目等については前編集委員会で掲載予定が決定されているので、それ以降については新委員会として戦略的に進めていく。
- ・本理事会前に開催された編集委員会で、学会誌がJ-STAGEに掲載される度に学会員に知っていただきたいとの意見があり、費用は掛かるがメール配信等を用いてお知らせする事を今後検討。
- ・9月のJPFISMの投稿状況は9件。
- ・英語を母国語としない論文の投稿者に対して、投稿がしやすいような仕組み（規程の改定等）作りを検討。
- ・2016年岩手大会の抄録はJPFISM 6号に掲載することが決まっており、構造化抄録を掲載、本体の雑誌については構造化されていないため、本体の方も構造化するかを検討。

#### 3) 学術委員会（竹森委員長）

学術委員会の下部組織に3つの委員会があるが、活動を尊重して進めていく。

##### ①スポーツ医学研修会実行委員会（山内委員長）

- ・前委員会から委員を刷新した。
- ・研修会の収支の問題があるが、応用コースに30名以上参加されたとしても、設備の問題もあり、運営も難しくなる現状がある。
- ・参加者を増やすためにメール配信には一定の効

果があったため、来年も実施予定。

- ・研修会の内容自体は大きな変更はなく準備を進める。

##### ②称号委員会（碓井委員長）

- ・称号そのものの在り方を検討。

##### ③プロジェクト研究委員会（須田委員長）

- ・スケジュールの前倒しが承認されたため、改定されたスケジュールに沿って進めていく。

#### 4) 評議員選考委員会（大野委員長）

- ・現在の評議員選考内規では7年の会員歴が定められているが、他学会で活躍されている方が本学会に入会した際は、会員歴が3年～5年でも申請が出来るようにするか等、内規の改定を検討。

#### 5) 渉外委員会（永富委員長）

- ・大きな活動は、国内外の関連学術団体との交流。
- ・脳心血管病協議会との連携。
- ・若手会員の派遣助成事業の制度の見直しに係るアンケートの実施。
- ・ECSS交流シンポジウムの2年後の公募シンポジウムを募集中（現在応募なし）。
- ・国内外の連携を広報委員会と連携してHP等を活用。

#### 6) 倫理委員会（成田委員長）

- ・理事長が掲げる今期の活動方針の実施。
- ・今後の委員会方針について検討。

#### 7) 広報委員会（甲斐委員長）

- ・情報を滞りなく学会員に伝えるHP更新。
- ・まずは新役員・委員の情報を更新。

#### 8) 男女共同参画推進委員会（田畑委員長）

- ・理事選挙では女性理事が選ばれなかったため、評議員申請の際など、ポジティブアクションを行う。

#### 9) ガイドライン検討委員会（西牟田委員長）

- ・継続中の案件があり、作成に取り組んでいく。
- ・介護予防のガイドラインを検討。

#### 10) 利益相反委員会（宮地委員長）

- ・投稿規定でCOIの例文が記載されているが、利益相反がある方も投稿するので、その例文を掲載できるよう編集委員会と連絡を取り合い、改定を行う。

#### 11) 財務委員会（勝村委員長）

- ・前委員会同様、引き続き無駄な出費が無いか確認を行う。
- ・収入増を目指すべき、理事の先生方の協力を得たい。